

事業の背景・目的

近年個体数の急激な減少が確認されている対象種（アマノヤマタカマイマイ・ヘソアキアツマイ

イマイ・タカネヒカゲ【ハヶ岳亜種】）について飼育に向けた施設の整備、先行飼育施設や生息地の情報収集等の事業を実施する。生息域外保全を軌道にのせることで、遺伝的多様性を確保した上での保険個体群の維持と、飼育下でしか得ることのできない科学的知見の集積を実現させる。そしてこれら得られた個体や知見については、生息域内保全と連携のもと、生息地へ還元することで、より確実に効果的な保全につなげていく。

事業の内容

ア 沖縄県産陸貝類の飼育環境整備事業
先行飼育施設の視察を行い、飼育繁殖に必要な要件を整理した。必要物品が整い次第、飼育環境の、温湿度など環境データのモニタリングを行った。



イ) タカネヒカゲの幼虫の飼育環境整備事業
事業ア同様に生息地、先行飼育施設の視察を行い飼育繁殖に必要な要件を整理した。必要物品の購入のほか、食草の入手、栽培を開始した。
環境整備が整い次第、温湿度、照度、紫外線量、スペクトル、食草育成のための光合成光量子速密度などの環境データのモニタリングを行った。

ウ ファウンダー入手事業
関係機関との許認可の手続きを行い、飼育個体の入手の準備を行う。
調整が付き次第飼育個体を搬入した。
飼育個体は安全性を考慮し、キャリアーハンドで運搬する。

得られた成果

ア) 先行施設の視察後、9月にアマノヤマタカマイマイ15頭、ヘソアキアツマイマイ30頭を導入。その後、アマノヤマタカマイマイは11月、ヘソアキアツマイマイは12月からそれぞれ同居飼育を開始。385個の産卵があり、242頭孵化している。
イ) 先行施設を視察後、12月に冬眠中の頭数不明の幼虫を導入。現在、恒温器にて低温管理し、今春に温度を上げ覚醒させる予定。

ウ) 令和5年9月27日に（一財）自然環境研究センターよりアマノヤマタカマイマイ15頭、ヘソアキアツマイマイを30頭導入、令和5年12月3日に冬眠中のタカネヒカゲの幼虫（個体数不明）を導入した。

